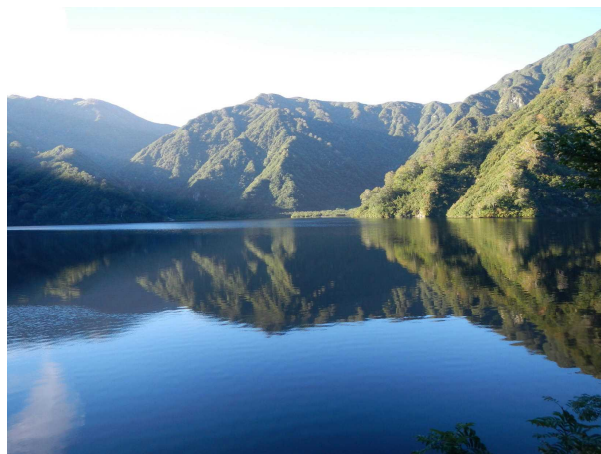


朝日自然塾の活動実績と今後の方向について

朝日庄内森林生態系保全センター 自然再生指導官 ○岩井 國彦
専門官 小倉 俊一

1. はじめに

平成25年4月に国有林野事業が一般会計化し、センターの組織名も「朝日庄内森林生態系保全センター」になり、「朝日自然塾」が、これまでの取組でどの程度の成果を上げてきたのか、今後はどのような考え方で取り組むべきか検討するため、8年間の活動実績などを整理・分析した。



写真－1 鶴岡市大鳥池（森林生態系保護地域内）

(1) 朝日自然塾の概要

- ① 朝日自然塾は、貴重な森林環境の残る朝日山地森林生態系保護地域及び周辺を活動場所として、年に数回一般市民の親子などを対象に実施する体験活動型森林環境教育プログラムを実施している。
- ② 朝日自然塾の活動場所である朝日山地森林生態系保護地域には、我が国最大規模のブナなどの原生的な自然状態が維持されており、小さなオコジョ



写真－2 オコジョ

や天然記念物のヤマネ、絶滅危惧種のイヌワシ等の動物約400種が生息し、また、貴重な高山植物やヒメサユリなどの植物約600種が生育している。これらの貴重な森林生態系を後世に継承していくため、平成15年3月に新潟県及び山形県に跨がる約7万ヘクタール(山形県内は庄内森林管理署・山形森林管理署・置賜森林管理署)の国有林内に設定された。

(2) 朝日庄内森林生態系保全センターの活動

当センターは、平成16年4月に朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターが設置されて以降、関係団体などと連携した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施する「朝日庄内プロジェクト」に基づき、

- ① 森林生態系保護地域においては、円滑な保全・管理を行うために常設の管理委員会の運営、ボランティアの巡視員との合同パトロールの実施や「朝日自然塾」などの活動

- ② 緑の回廊においては、「最上川スキー場」跡地の植生復元のための地域住民や山形大学と連携した自然再生活動
- ③ 庄内海岸の国有林においては、地域のボランティア団体などと連携した森林整備活動の技術指導、酒田市の保育園において森林を利用した体験や木工品づくりなどの森林環境教育の取組などの活動を行ってきている。

(3) 朝日自然塾の設立経緯

平成18年8月に、森林生態系保護地域の保全管理に関係の深い山形県山岳連盟、出羽三山の自然を守る会等の9団体と東北森林管理局が「自然とのつきあい方を学び、生態系の保全に繋げることを目的として「朝日自然塾に関する協定書」を締結し、「朝日自然塾連絡協議会」を設立した。この協議会において「朝日自然塾」を運営している。

朝日自然塾の構成団体

- 山形県山岳連盟
- 出羽三山の自然を守る会
- 小国の自然を守る会
- 山形県溪流釣り協議会
- 山形県内水面漁業協同組合連合会
- 山形県猟友会
- 西川町大井沢区
- 大井沢自然博物館・自然と匠の伝承館
- 鶴岡市朝日庁舎
- 東北森林管理局

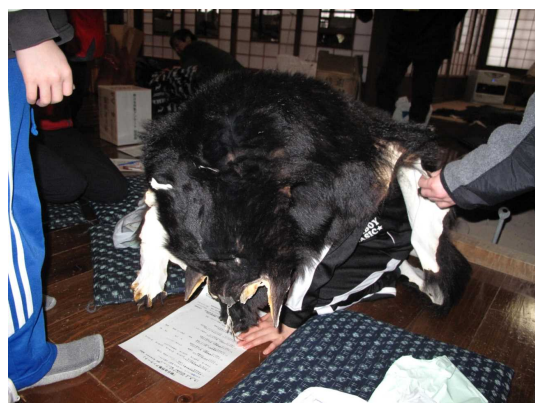
表－1 朝日自然塾構成10団体

(4) これまで朝日自然塾で実施したプログラム

- ① 溪流釣り体験（森林と溪流の繋がりを学ぶ）
- ② 昆虫観察（生存に必要な植物について学ぶ）
- ③ 植樹体験（森づくりの手伝いができることを学ぶ）
- ④ 森林散策（森の動植物たちとふれあう体験）
- ⑤ 森林整備（小さな樹木を大きく育てる体験）
- ⑥ 登山体験（地形や標高の違いによるダイナミックな森林生態系の変化を学ぶ）
- ⑦ かまくら・かんじき体験（厳しい自然環境で生きる動植物の姿や里山の豊かな暮らしなどを地元の狩人から学ぶ）



写真－3 イワナを釣り上げました



写真－4 本物の毛皮をかぶって

朝日自然塾の特徴は、このような「自然体験活動」と「屋内で行う座学」をセットで行うことにある。また、朝日山地に精通した関係団体の方々とそれぞれの分野・実施場所にあったプログラムを提供してきたことが挙げられる。

2. 取組の実績と成果

(1) 8年間の参加実績

これまで参加した者の動向を把握するため、平成18年から25年までの8年間の参加人数を集計した結果は次のとおりである。

① イベントの実施

回数は36回、参加者は延べ1,011人、うち子どもは633人(63%)、大人は378人(37%)となった。

(平成20年度から子どもが飛びぬけて多くなっているのは、小学校等の依頼により行った登山の「特別プログラム」に参加した子供の人数が多いことによる)

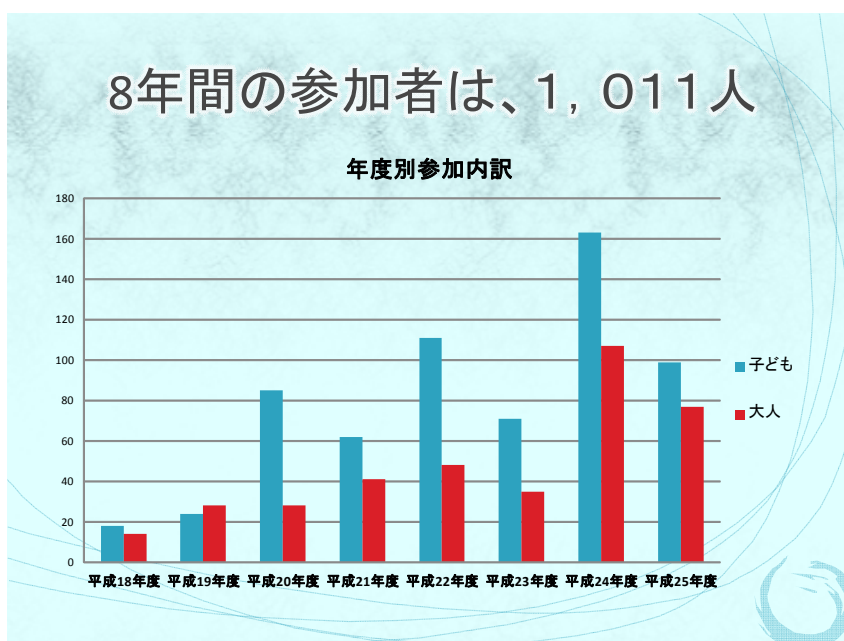


図-1 朝日自然塾の参加者

② 「特別プログラム」を除く、一般参加者478人について、「分野別参加者数」として再集計した。

イベント参加者数の1位は溪流釣り体験で215人(45%)になった。2位は昆観察で71人(15%)、3位かまくら・かんじき体験69人(14%)などの順となった。

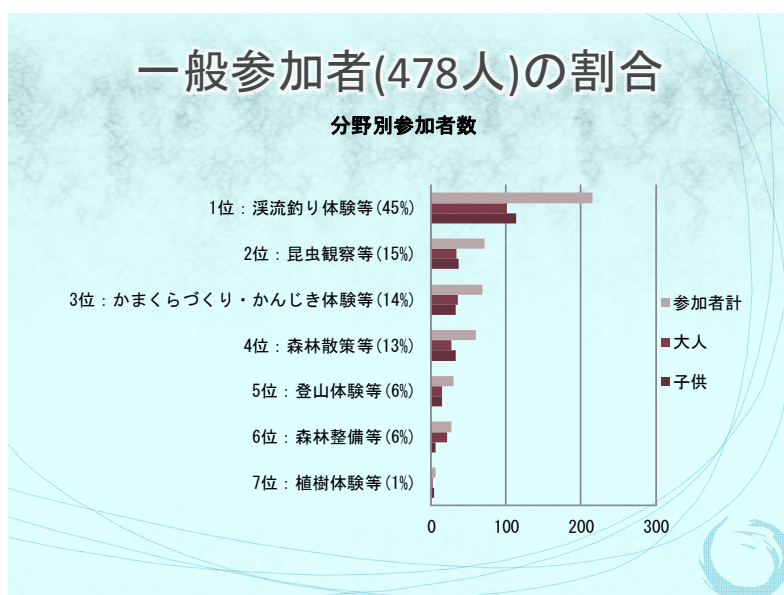


図-2 一般参加者の割合

(2) 朝日自然塾プログラム実施後のアンケート調査結果

参加者のニーズを把握し、今後の方向について検討するため、平成24年から2年間の参加者136人に実施したアンケート調査（調査は様式-1）の集計・分析結果は次のとおりである。

「朝日自然塾アンケート」

○実施日：平成25年11月9日（土） ○場所：鶴岡市大島 森林整備箇所
 ○プログラム名：朝日自然塾5 「朝日山地の大島で 自然再生の森づくり」

以下の質問について、○印または記述でお答え下さい。

1) あなたの学校名等を教えてください。
 ○学校名等：() 小学校、() 中学校、会社員、その他 ()

2) あなたの学年等を教えてください。
 ①小学1年 ②小学2年 ③小学3年 ④小学4年 ⑤小学5年 ⑥小学6年
 ⑦中学1年 ⑧中学2年 ⑨中学3年 ⑩大人の方（高校生以上）

3) イベントを何で知りましたか。
 ①チラシ ②広報誌 ③新聞 ④ホームページ ⑤その他 ()

4) イベントの実施時期は、良かったですか。
 ①良かった ②悪かった（希望する時期 月 上旬 ・ 下旬 頃）

5) イベントの実施時間は、良かったですか。
 ①このままで良い ②良かった（希望 時間） ③短かった（希望 時間）

6) イベントの実施場所は、良かったですか。
 ①良かった ②悪かった（希望する場所 ()

7) プログラムの内容は、良かったですか。
 ①良かった ②まあまあ良かった ③改善すべき点 ()

8) パンフレットについて、分かりやすかったですか。
 ①分かりやすかった ②分かりにくかった（希望内容 ()

9) スタッフの体制は、良かったですか。
 ①良かった ②悪かった（希望する体制 ()

10) 今回のイベント参加に何を期待（楽しみに）して参加しましたか。
 また、イベントに参加したいですか。
 ①参加したい（理由： () ②参加したくない（理由： ()

11) 今後は、どのようなイベントに参加したいですか。【複数選択可能】
 ①植栽（森林整備） ②下刈り（森林整備） ③間伐・抜き切り等（森林整備）
 ④植物観察 ⑤昆虫観察 ⑥野鳥観察 ⑦森林散策 ⑧ネイチャーゲーム ⑨木工クラフト
 ⑩キノコの駒打ち体験 ⑪森の清掃活動 ⑫ボランティアによる森林パトロール
 ⑬森林の歩道整備活動 ⑭森林病害虫の駆除活動 ⑮特になし
 ⑯災害発生時のボランティアによる情報提供活動 ⑰天然林への自然再生活動
 ⑱その他 ()

12) 感じたこと ()

朝日自然塾では、これからは森林生態系保護地域内の貴重な遺伝資源を後世に継承するため、人々の生活環境と森林との関係について、森林内などでの体験を通じて学ぶプログラムを実施していきます。

アンケートに、ご協力いただき、ありがとうございました。

様式-1

① 「また、イベントに参加したいですか」との質問に対して、「参加したい」との回答が92%となり満足度が高いことがわかった。

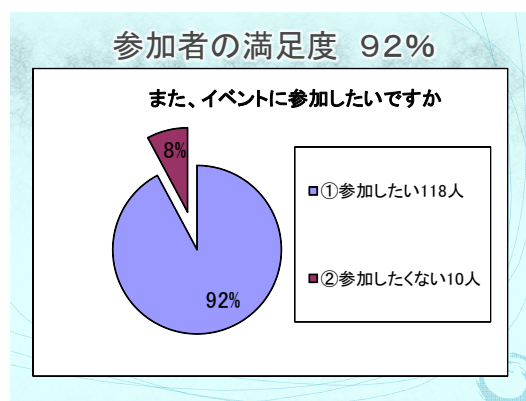


図-3 参加者の満足度

② 「今後どんなイベントに参加したいですか（複数回答）」との回答（ニーズ）を大人、子供別に整理した。

大人は1位森林散策（18%）、2位植物観察（13%）、3位昆虫観察と野鳥観察（共に9%）であったが、

子どもは1位ネイチャーゲーム（17%）、2位木工クラフト（14%）、3位昆虫観察（12%）となり、大人と子供でニーズが違うことが分かった。

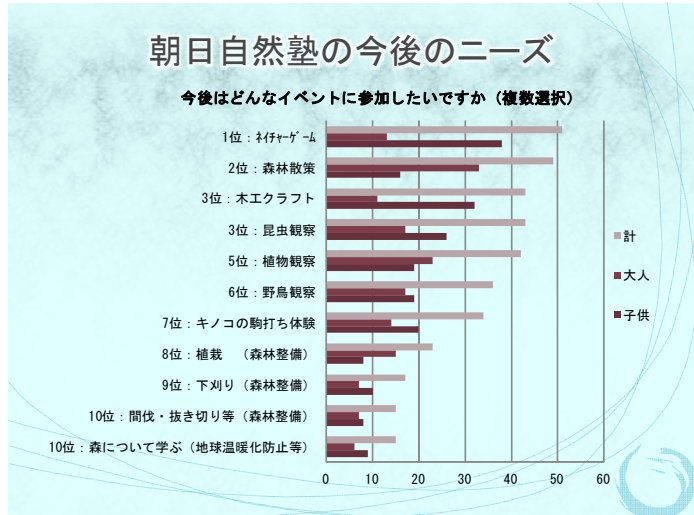


図-4 今後のニーズ①

③ 図-4の8位～10位の森林整備の3項目（植栽、下刈り、間伐・抜き切り等）を合計して再集計した。

大人と子供を合わせた全体では1位森林整備（16%）、2位ネイチャーゲーム（12%）、3位森林散策（12%）となり、森林整備に関するニーズとしては大きいものがあり、今後取り組むべきプログラムの1つと考えられる。

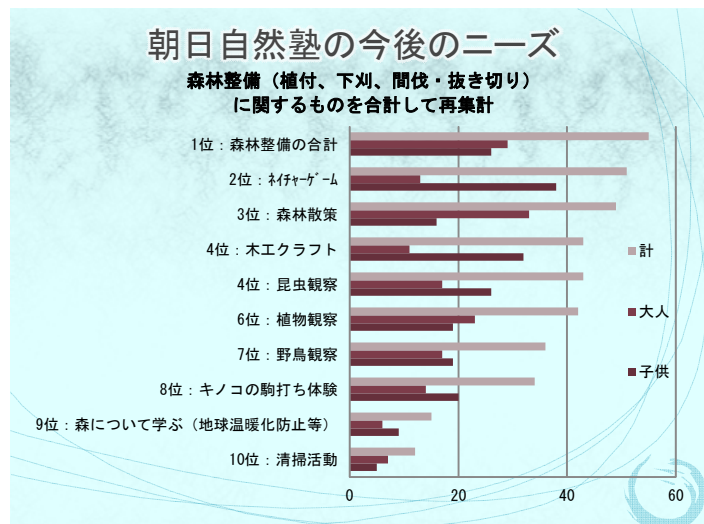


図-5 今後のニーズ②

3. 考察

(1) 朝日自然塾連絡協議会では、大半のプログラムが終了した冬季に1回、関係団体の代表者が集まって、実施したプログラム等について評価・分析を行っている。

その中では、「同じ場所で複数年実施しているイベントのマンネリ化の解消」や「スタッフの効率的・効果的な実施体制を確立する必要がある」といった意見がでており、今後の「年間プログラム」の作成にあたって

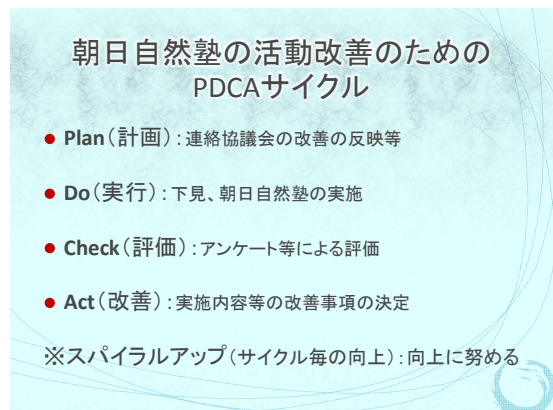


表-2 PDCA サイクル

ては、例えば、「プログラムの入れ替え」、「時期・場所の変更」、「新プログラムの企画・提案」、「プログラム実施技術向上のための方策」などの案を出し合い良いプログラムとなるよう検討が必要である。また、より良いプログラムとするための手法としてPDCAサイクルを活用し、計画を立て、実行し、評価し、改善し、向上することの繰り返しにより、プログラムの改良などに取り組んでいきたいと考えている。

(2) 今回の発表課題に取り組む中で分かったことは、朝日自然塾の構成団体の方々による実態を踏まえた前向きな提案により、プログラム内容の改良が促進され、良質のプログラムとなってきたこと、また、参加者の満足度が高く、良い評価を受けていることが分かった。

(3) アンケート調査結果から、今後の朝日自然塾のプログラム内容は、これまでの体験活動型森林環境教育プログラムの中に、森林整備（森林生態系の復元）などの活動内容を加えて進化させていくことが望まれていると考える。

4. まとめ

朝日庄内森林生態系保全センターや局署が、「地域の関係団体」や「朝日自然塾の団体のみなさん」と連携・協働して、朝日自然塾の活動を継続することによって、将来の「貴重な森林生態系の保全管理」に繋がるものと確信している。

最後に、これまで関係団体など延べ369人ものスタッフとしてご協力いただいたみなさんに感謝・お礼を申し上げ、今後も関係者のみなさんとともに取り組んでいきたい。



写真－5 鶴岡市立朝日小学校の大鳥池登山